

保育計画成果報告書

法人名	特定非営利活動法人 地域ひといき
施設名	大塚いきいき園
報告者（役職）	開原 鋭吾（施設長）
住所・連絡先	大阪府高槻市大塚町 5-8-5
	☎ (072) 669-8036
	E-mail otsukaikiikien@gol.com

○タイトル（保育計画）

○「やってみたい」ができる遊具と落ち着いて遊べる玩具

○主な助成備品

○プレイクッション（4種類） ○リバーストーンズ、リバー 鉄棒
○キッチン台 ○絵本、人形、ブロック、積木、パズル その他

1. 保育計画策定の目的

小規模保育施設である当園には室内あそびの遊具、玩具が十分に揃っている、とは言えない状態でした。特に雨天で戸外活動が出来ない日は遊びが単調になったり、全身を使っ
ての運動が限られていました。

そこで、少ないスペースでもしっかりと体を動かせる遊具と、落ち着いてごっこあそび
が楽しめる人形、キッチン台、絵本などを購入しました。またこれらは、保育者が一方的
に遊びを提供するのではなく、子どもたちと一緒に考え、遊べるものを選びました。

2. 具体的な実施内容

体を動かす遊具は大きく分けて3種類（プレイクッション、リバーストーンズ、鉄棒な
ど）購入させていただきました。

まず、プレイクッション。登る、飛び降りる、斜面を歩く、バランスをとる、などの動
きが楽しみながら行えます。これらは軽く、組み合わせを変えることも容易にできるため
ひとりひとりの発達、興味に合わせた形にしやすい事もこの遊具を選んだポイントとなっ
ています。また、子どもたち自身が取り組みたい形を自ら作っていくことも可能となっ
ているため、より意欲的に遊び込めるものとして選びました。

小規模保育施設ゆえ、園庭がなく近隣の公園に遊びに行く事が日課となっている当園ですが、公園には発達に合っていない遊具が多く、「走る」ことによって体は動かせても「よじ登る」や「飛び降りる」といった活動には制限を掛けざるを得ないことが多くありました。しかし、これらの遊具を使用することによって徐々に高さを調節することで、年齢の低い子どもであっても飛び降りるといった事が可能となり、挑戦する姿が見られるようになりました。0歳児クラスでも使用できハイハイで斜面を登ったり下ったりする姿もみられ、より全身を楽しみながら動かすことができます。さらに歩行が安定してくると段差をつけたものに挑戦できるようにしました。

また、プレイクッションは体を使うだけでなく、組み合わせによっては秘密基地のようにすることもできます。こういった全く異なった使い方をすることで子どもたちのドキドキ感を高める事もできて、活動を始める前の会話も自然と盛り上がり、より遊びに対する意欲と集中力が高まっています。

次にリバースストーンズ。高さ5～6cm、長さ30cmほどの小さな平均台といった感じの遊具ですが、こちらも組み合わせが簡単にできるものとなっています。一般的な高さの平均台では、恐くてチャレンジが出来ない子どもも落ちてすぐに足がつくことが分かれば積極的に遊んでくれます。形も数種類あり、飛び石の様なコースも作ることができジャンプをして渡っていくこともあります。子どもたちが中心となってコースを作る際には衝突もありますが、このような経験も大事なものととらえ、見守る時間をとることで完成した時の表情や、遊ぶ姿にはいつも以上の笑顔を見ることができました。

人形やキッチン台などごっこ遊びに使う玩具ですが、(すべてプラスチック製のため)硬かったり、小さくて遊び込めていない場面もありました。そこで、柔らかい人形、大きなキッチン台を購入することで遊び込める環境を整えました。二人でキッチン台の前に並んで遊んだり、一人で黙々とご飯を作って友だちに持って行ってあげたりする姿が増え、子どもと保育者、子ども同士のやり取りも以前に比べ格段に増えてきています。遊び込めるようになった事で個性も出てきて、それがお互いに良い刺激となり、ままごとのメニューも日々増えています。

絵本は数を増やすことで季節ごとの入れ替えもしやすくなり、身の回りの様々な事に関心を持つ事にも一役買ってくれています。また、種類が増えた事により、好みの絵本が分かれ、集中して読むこともできています。もちろん好きな絵本を持ってきて保育者に読み聞かせをしてもらい、笑いあいながら並んで座っている姿もあり、子どもたちだけではなく保育者もほっこりとさせてもらっています。



3. その成果と評価

プレイクッション等は予想以上に組み合わせの幅が広く、子どもたち同様保育者も楽しみながら様々な組み合わせを楽しんでいます。遊具の特性上、順番を待つ事もあるのですが、これも良い方向に働き、ルールを伝えるきっかけとなっています。また自分より高い所に登っている友だちをみて、「よし、自分も」と頑張ったり、「がんばれ～」と応援する姿も見られるようになり、友だちを意識したり、関わりもどんどん増えてきました。

ここで経験した事は様々な場面でも生きていて、公園などでも以前より積極的な姿が見られるようになり、基礎体力も上がってきています。

人形遊びは以前はプラスチック製の人形を使用していたのですが、洋服の着せ替えをして遊ぶ姿が見られるくらいでした。そこで、抱き心地の良さや、赤ちゃんの柔らかさ、人のあたたかみや思いやりの心が感じられたらと思い、胴体部分が布製のものを購入させていただきました。すると人形を抱っこする子どもが増え、遊びもベッドに寝かせてあげたり、ご飯を作ってあげたりと変化していきました。

キッチン台もより大きくしっかりとしたものになり、料理をする姿にリアリティーさが一気に増し、また作るものの種類、友だちとのやり取りも増えていきました。特にシンク部分が大きくなったことで洗い物も楽しみながら遊んでいます。

また、ブロック等は、各遊びのスペースを分けたこともあり、集中して遊ぶ姿が見られるようになりました。さらに数に余裕ができたこともあって作ったものを保護者の方に見せるために残しておく、といった事も可能になったので、より意欲的に集中して組み立て、保護者と嬉しそうに会話する姿も多く見られるようになりました。友だち同士の関わりでも、同じテーマ（例えば車などを作ってドライブを楽しんだりする）で遊ぶ姿も多くなりました。



4. 今後の課題と展望

それぞれの遊具、玩具は運動や集中して遊ぶ、などテーマを決めて選ばせていただきました。それぞれに子どもたちの興味、意欲を引き出し遊び込ませてくれている物ですが、これに頼り切りにならないようにしたいと思います。今回玩具一つ一つに対してもしっか

りと狙いを持つ事の重要性を再確認しましたので、現在あるものも含め、どのように子どもたちの成長に良い影響を与えられるかを全職員が意識し、考えながら関わっていく事を大切にしていきたいと思います。

以上